

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目	事業所と地域とのつきあい(外部評価項目:2)	評価
	地域との交流は前回評価からの大きな課題であったが、積極的な取り組みの成果が出始めている。地域の公立保育園との交流が具体化してきた。地域への浸透や啓蒙を目的としたホームの情報誌「グループホーム燦だより」は、地区総代を経由して24地区に回覧されている。	
重点項目	運営推進会議を活かした取組み(外部評価項目:3)	評価
	運営推進会議のメンバーを多様化するために、新たに民生委員を加え、さらに地区福祉委員を加えた。この地区福祉委員を通じて、地域の独居老人の存在やその状況が把握できることとなった。ここから得られた情報を基に、地域の福祉ニーズに対して法人としての取り組みの方向性が探れることとなった。	
重点項目	市町村との連携(外部評価項目:4)	評価
	管理者は、介護事業者連絡会議のグループホーム小部会の活動にも積極的に参加している。現在の行政担当者だけでなく、かつて担当者であった上席の役職者ともつながりを持っており、いつでも相談できる関係を構築している。	
重点項目	運営に関する利用者、家族等意見の反映(外部評価項目:6)	評価
	家族会が組織されており、利用者・家族の意向をホーム運営に活かそうとの姿勢がうかがえる。家族アンケートの自由記述は少なかったが、家族会への参加率が高いことから、利用者・家族の意見や意向は家族会で直接話されているせいであろう。家族会から出された「ボランティアの有効活用」が真剣に検討されている。毎月発行されている家族向けの「グループホーム燦だより」の内容・構成については、常に検討が加えられている。	
重点項目	その他軽減措置要件	評価
	「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	
	運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	
	運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	
総合評価		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>管理者は、将来的に外部評価が2年に1回に軽減されることを希望していない。外部評価の受審機会を通して、第三者的な観点から自分たちの取り組みの成果(サービスの質の向上)を確認しようとしている。管理者のみならず、ホーム全体に向上意識がうかがえる。</p>
---

1. 外部評価軽減要件

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。

運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。

運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況(外部評価)が適切であること。

2. 外部評価軽減要件 における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認(記録、写真等)できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。  地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。  運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。  市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) 家族会を定期的(年2回以上)に開催している。  利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。  家族向けのホーム便り等が定期的(年2回以上)に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。